

第86回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成26年4月～6月期

平成26年4月～6月期は、消費税導入後の反動による景気の落ち込みが見られ、企業マインドを低下に向かわせる要素があった。日銀短観の4月～6月期調査におけるDIは1年半ぶりに悪化し、大企業、中堅企業、中小企業のいずれも悪化するなど、増税を背景とした企業マインドの低下が確認された。

このような中、トラック運送業界においては、消費税導入後に輸送量が低下する状況が見られるなど事業環境は厳しく、トラック運送業界の景況感の判断指数は▲30.8となり、前回（+14.2）から大幅に悪化した。今回の業況悪化はいずれの規模においても同様に下げ幅が大きく、特に大規模事業者の下げ幅は60ポイント以上と著しい。

今後は、消費増税による景気の落ち込みは一時的との見方もあるが、トラック運送業界では燃料コストの高止まりや労働力不足等の不安材料も多く、業界の景況感の判断指標は、今回から2.8ポイント悪化の▲33.6が見込まれている。

平成26年8月20日

公益社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成26年4月～6月期）の状況

① 概況

平成26年4～6月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は17.8%（前回38.8%）、「悪化」とした事業者は41.7%（前回24.9%）で、判断指標は▲30.8となり、前回（+14.2）から45.0ポイントの大幅悪化となった。

② 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が29.9%、「増加」とする事業者が28.7%で、判断指標は▲4.4となり、前回（+35.4）から39.8ポイント低下した。営業収入は「減少」とする事業者が32.7%、「増加」とする事業者が29.8%で、判断指標は▲6.6となり、前回（+23.9）から30.5ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が45.9%、「増加」とする事業者が18.5%で、判断指標は▲35.6となり、前回（0.0）から35.6ポイント悪化した。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が36.8%、「増加」とする事業者が18.4%で、判断指標は▲23.7となり、前回（+33.3）から57.0ポイント低下した。営業収入は「減少」とする事業者が39.5%、「増加」とする事業者が15.8%で、判断指標は▲26.3となり、前回（+28.6）よりも54.9ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が39.5%、「増加」とする事業者が21.1%で、判断指標は▲21.1となり、前回（+19.0）から40.1ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が43.8%、「増加」とする事業者が18.8%で、判断指標は▲23.4となり、前回（+50.7）から74.1ポイント低下した。営業収入は「減少」とする事業者が39.1%、「増加」とする事業者が21.9%で、判断指標は▲15.6となり、前回（+43.5）から59.1ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が40.6%、「増加」とする事業者が18.8%で、判断指標は▲25.0となり、前回（+39.1）から64.1ポイント悪化した。

④ 運賃水準

運賃水準は、一般貨物は+8.0（前回+7.0）と1.0ポイント改善、宅配貨物は+23.7（前回+19.0）と4.7ポイント改善、宅配以外の特積貨物は+39.1（前回+30.4）から8.7ポイント改善となっており、運賃水準は上昇傾向にある。

⑤ 実働率等

実働率は▲4.9（前回+26.5）と31.4ポイント悪化、実車率は▲3.1（前回+23.5）となり、26.6ポイント悪化となった。

雇用状況（労働力の過不足）は+61.5（前回+69.8）とやや低下となったが、依然として不足感が強い。採用状況は▲3.8（前回+3.9）で指標は7.7ポイント低下し、所定外労働時間は▲2.1（前回+27.4）と29.5ポイント減少している。

貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲5.3（前回+9.0）で14.3ポイント減少となった。

⑥ 規模別及び取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、いずれも▲30前後の水準となり、大幅に水準を下げている。特に大規模事業者は前回より67.5ポイント低下している。

一般貨物における主な取扱い品目別については、いずれもマイナスとなっており、大幅に水準を下げている。特に消費関連貨物と建設関連貨物、その他貨物は水準が低下している。

一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、前回まで相対的に指標の水準が良かった四国、北陸信越が水準を下げ、九州や東北も水準が低くなっている。

2. 今後（平成26年7月～9月期）の見通し

① 概況

平成26年7～9月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲33.6で、今回から2.8ポイント下げる見込み。

② 一般貨物

一般貨物について、輸送数量、営業収入はやや悪化、営業利益は僅かに悪化の見込みである。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物について、輸送数量及び営業収入は僅かに改善、営業利益は横ばいの見込みである。

宅配以外の特積貨物について、輸送数量は増加、営業収入は僅かに改善、営業利益は改善の見込みである。

④ 運賃水準

一般貨物は横ばいの見込み、宅配貨物と宅配以外の特積貨物は低下の見込みである。

⑤ 実働率等

実働率、実車率はやや低下の見込みである。雇用状況（労働力の過不足）はやや指標の水準を上げ、引き続き不足感がある見込みである。採用状況はほぼ横ばい、所定外労働時間はやや指標の水準を下げ、減少する見込みである。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）はほぼ横ばい。経常損益はやや悪化の見込みである。

⑥ 規模別および取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、中規模事業者がやや水準を下げる見込みであり、小規模事業者と大規模事業者はほぼ横ばいの見込みである。

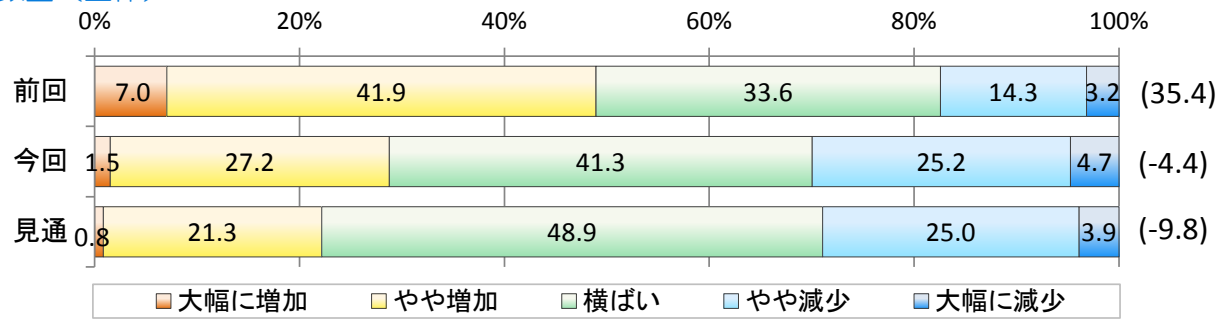
一般貨物における主な取扱い品目別では、消費関連貨物や建設関連貨物はやや改善するものの、機械関連貨物やその他貨物については低下する見込みである。

一般貨物における地域別では、中国、九州において水準が低下する見込みである。

なお、今回より「6. 事業者特性格別の特徴（P.8～P.9）」について、報告書の表記方法を一部変更した。

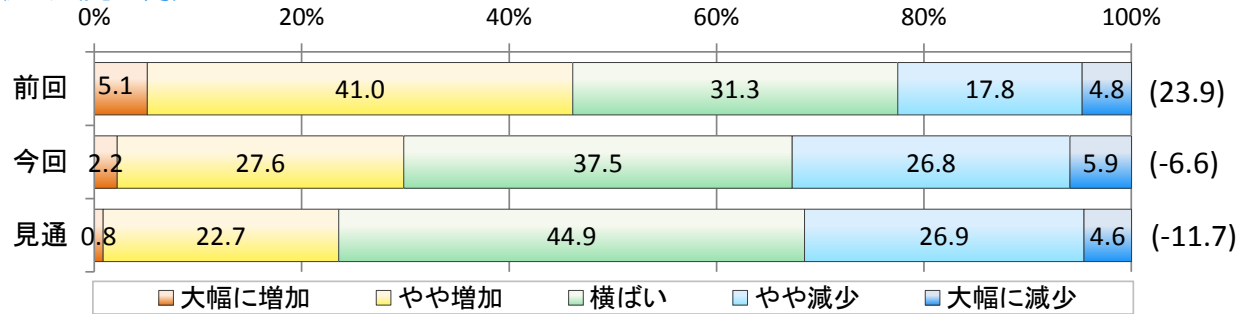
3. 一般貨物の概況

■ 輸送数量 (全体)



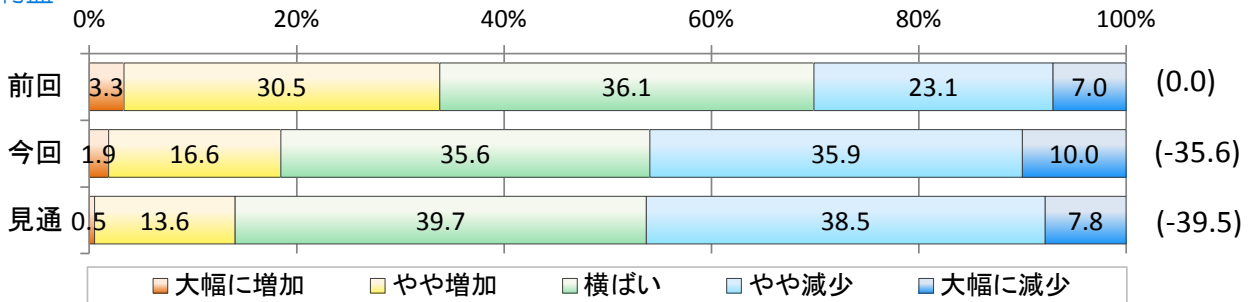
- ・ 前回より39.8ポイント悪化した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

■ 営業収入 (売上高)



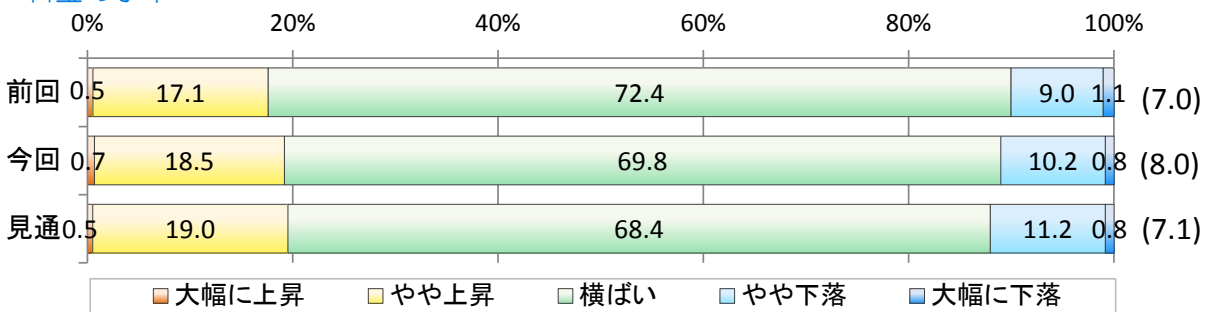
- ・ 前回より30.5ポイント悪化した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

■ 営業利益



- ・ 前回より35.6ポイント悪化した。
- ・ 今後は水準を僅かに下げる見込み。

■ 運賃・料金の水準



- ・ 前回より1.0ポイント改善した。
- ・ 今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

【調査の概要】

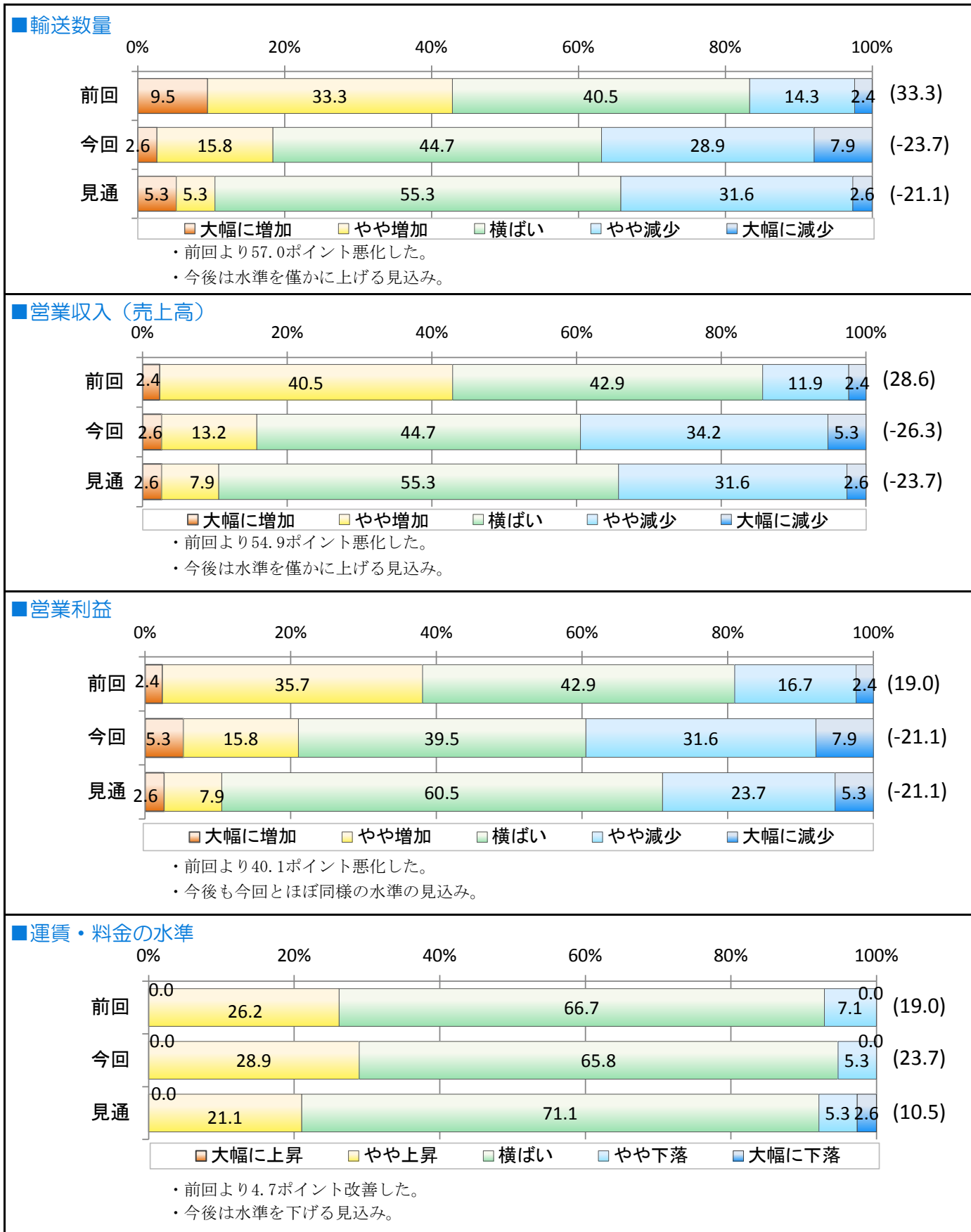
平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第86回調査は、平成26年7月1日に、モニターに対して調査開始。平成26年8月15日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
71	591	608

※一部回答事業者の重複あり

4. 特積貨物の概況

① 宅配貨物



(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

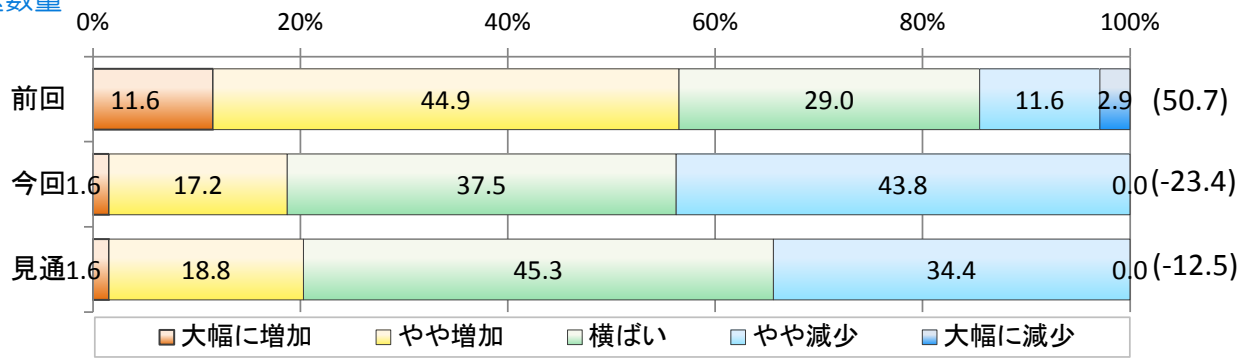
(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、大幅に増加・上昇・好転、労働力不足+2、やや増加・上昇・好転、労働力不足+1、横ばい0、やや減少・低下・悪化、労働力過剰-1、大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A (設問Aの回答者数) = $a_1+a_2+a_3+a_4+a_5$ (設問Aの選択肢1~5の回答数の和)

指標 = $\{(+2 \times a_1) + (+1 \times a_2) + (0 \times a_3) + (-1 \times a_4) + (-2 \times a_5)\} \div A \times 100$

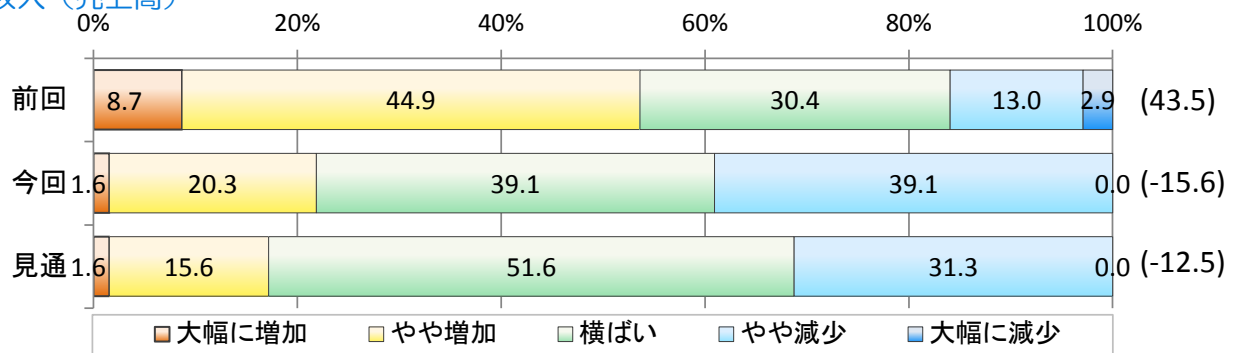
② 宅配以外の特積貨物

■ 輸送数量



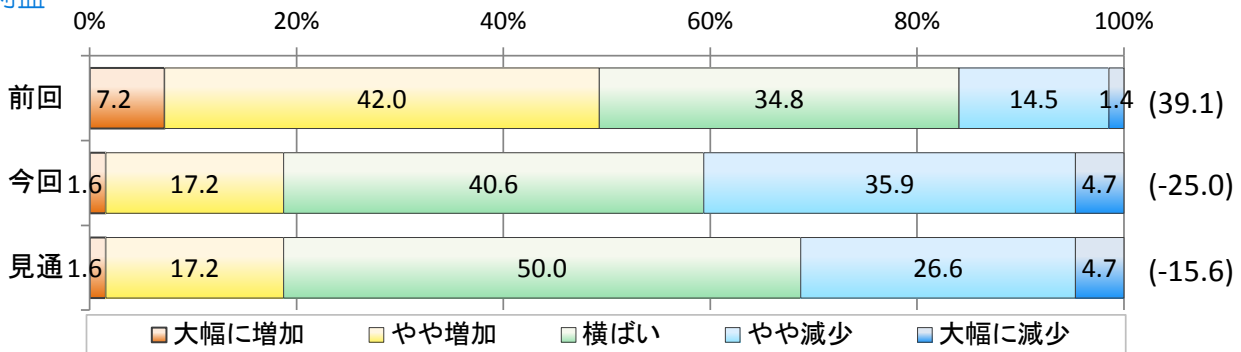
- ・前回より74.1ポイント悪化した。
- ・今後は水準を上げる見込み。

■ 営業収入 (売上高)



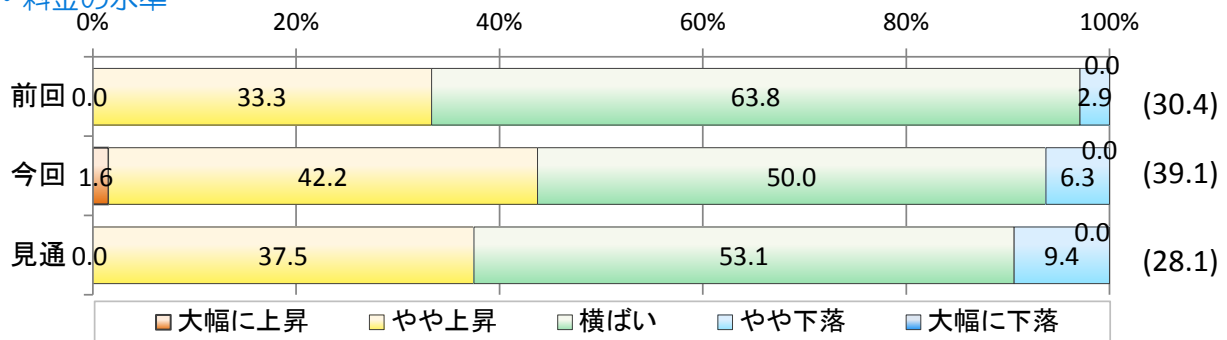
- ・前回より59.1ポイント悪化した。
- ・今後は水準を僅かに上げる見込み。

■ 営業利益



- ・前回より64.1ポイント悪化した。
- ・今後はやや水準を上げる見込み。

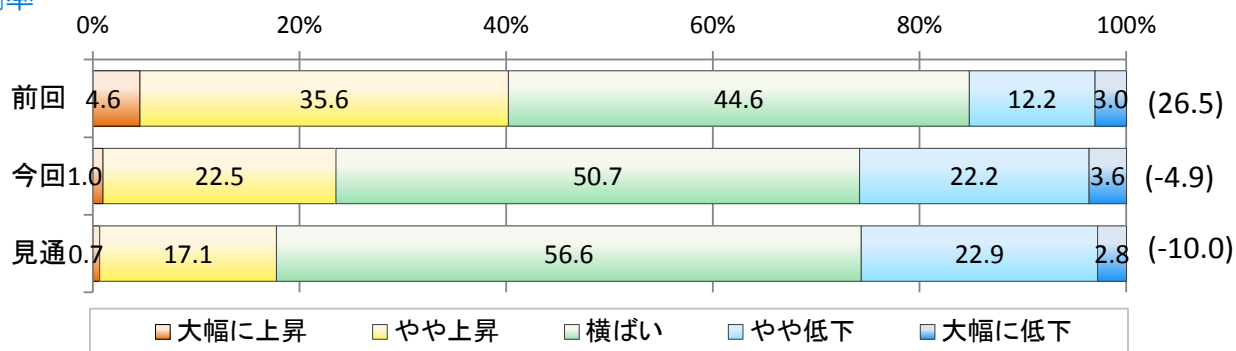
■ 運賃・料金の水準



- ・前回より8.7ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

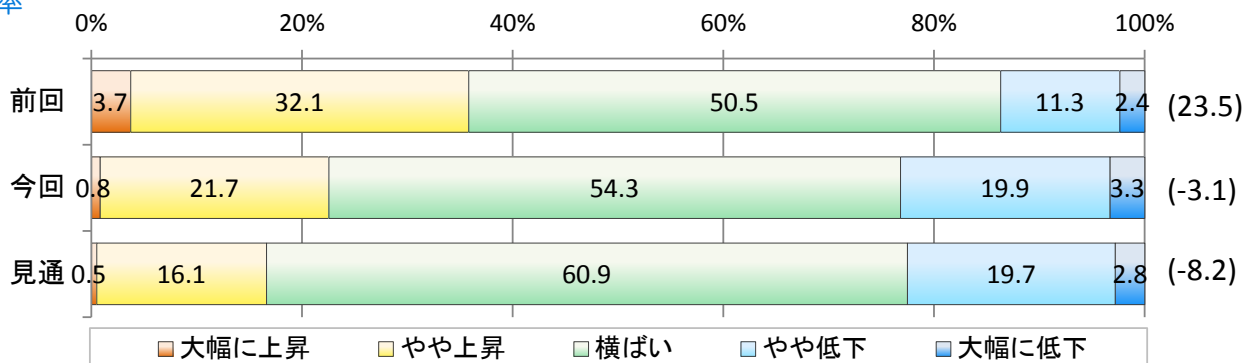
5. 共通の概況

■ 実働率



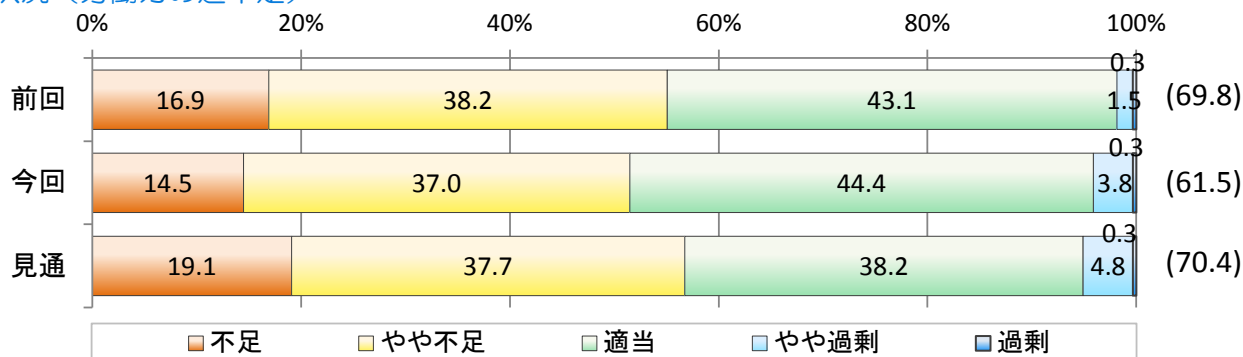
- ・ 前回より31.4ポイント悪化した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

■ 実車率



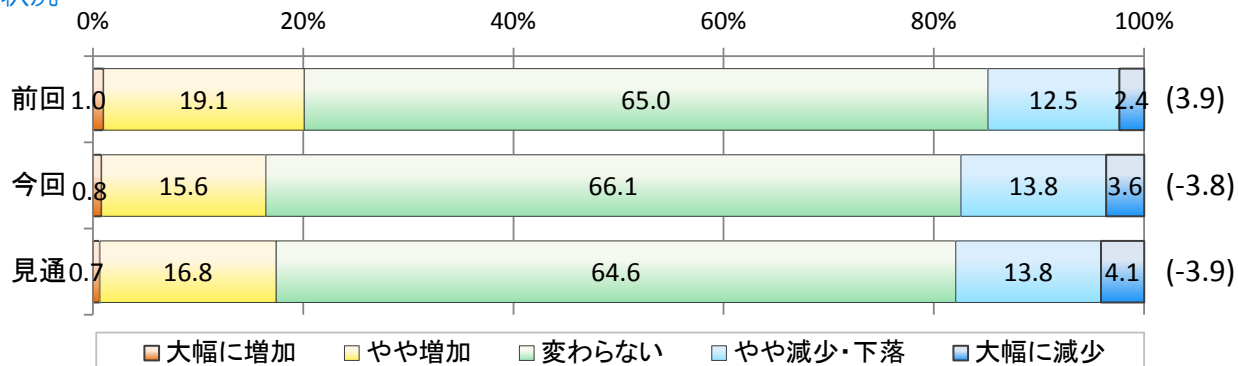
- ・ 前回より26.6ポイント悪化した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

■ 雇用状況（労働力の過不足）



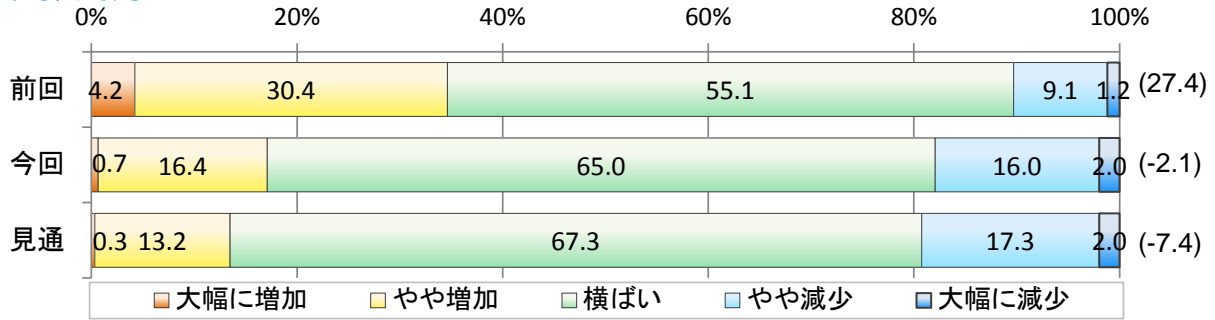
- ・ 前回より8.3ポイント低下した（不足感が弱くなった）。
- ・ 今後はやや水準を上げる見込み。

■ 採用状況



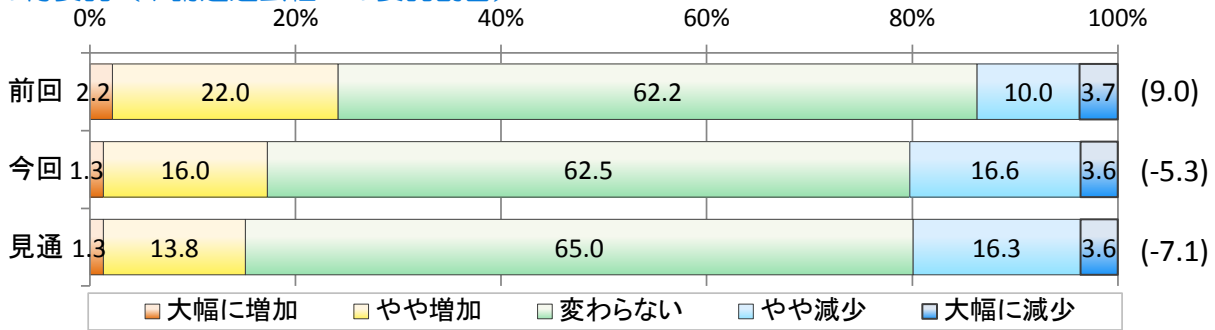
- ・ 前回より7.7ポイント減少した。
- ・ 今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■ 所定外労働時間



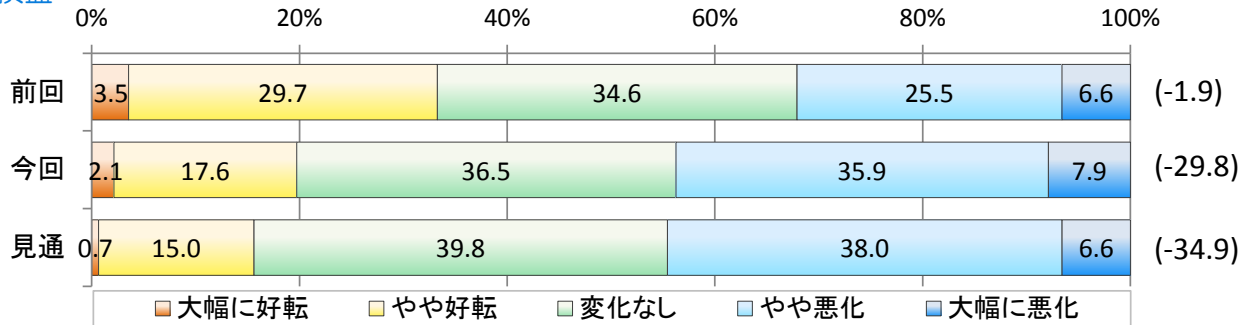
- ・前回より29.5ポイント減少した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

■ 貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）



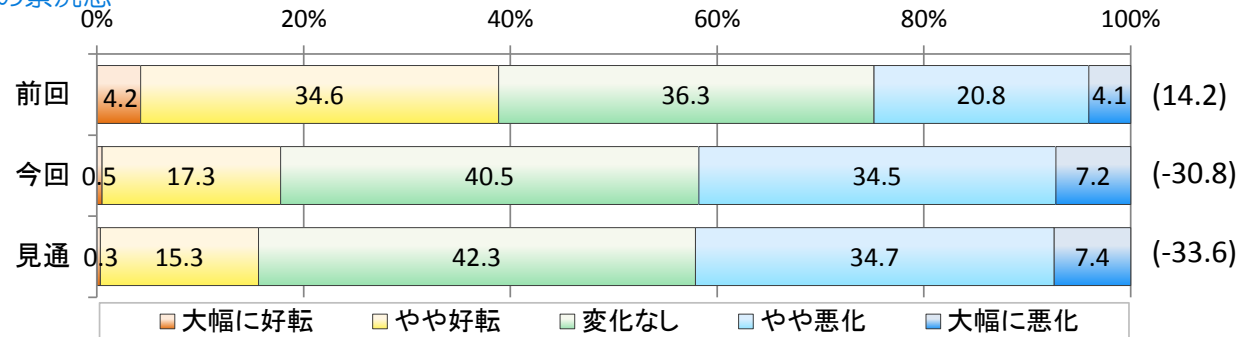
- ・前回より14.3ポイント減少した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

■ 経常損益



- ・前回より27.9ポイント悪化した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

■ 業界の景況感



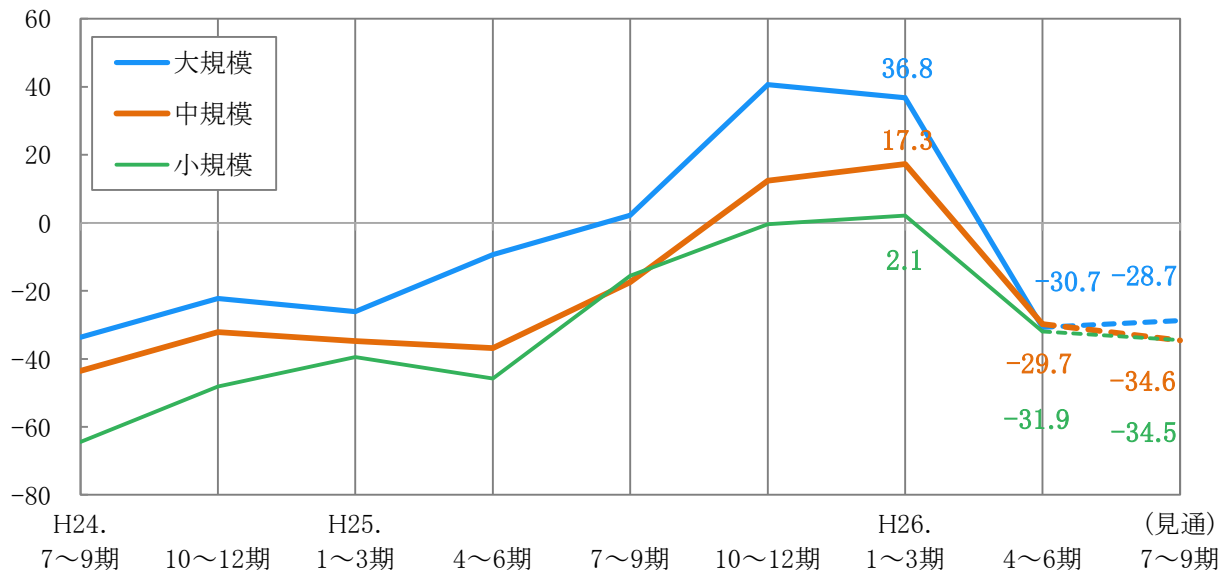
- ・前回より45.0ポイント悪化した。
- ・今後は水準を僅かに下げる見込み。

6. 事業者特性格別の特徴

① 規模（注4）

- ・事業規模別の景況感は前回と比べ、いずれも大幅に低下している。特に大規模事業者の景況感の低下が顕著である。
- ・今後は中規模事業者において、やや低下の見込みである。

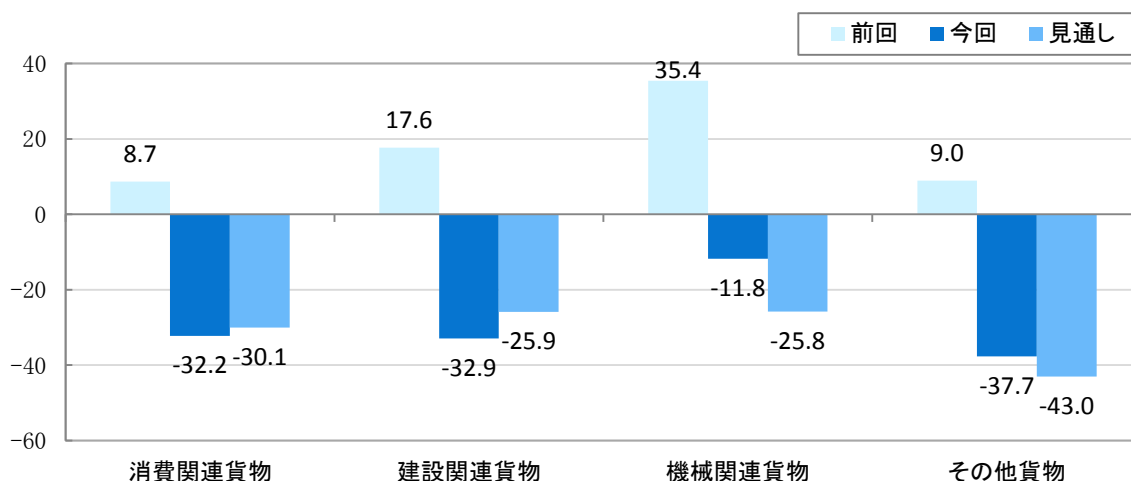
事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移（H24.7～9期より）



② 品目（注5）

- ・「消費関連貨物」及び「建設関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を下げている。今後の水準は、やや上がる見込みである。
- ・「機械関連貨物」及び「その他貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を下げている。今後の水準は、下がる見込みである。

品目別 業界の景況感に関する指標（一般貨物）



（注4）規模別分類

大規模事業者：101両以上

中規模事業者：21両以上100両以下

小規模事業者：20両以下

（注5）品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

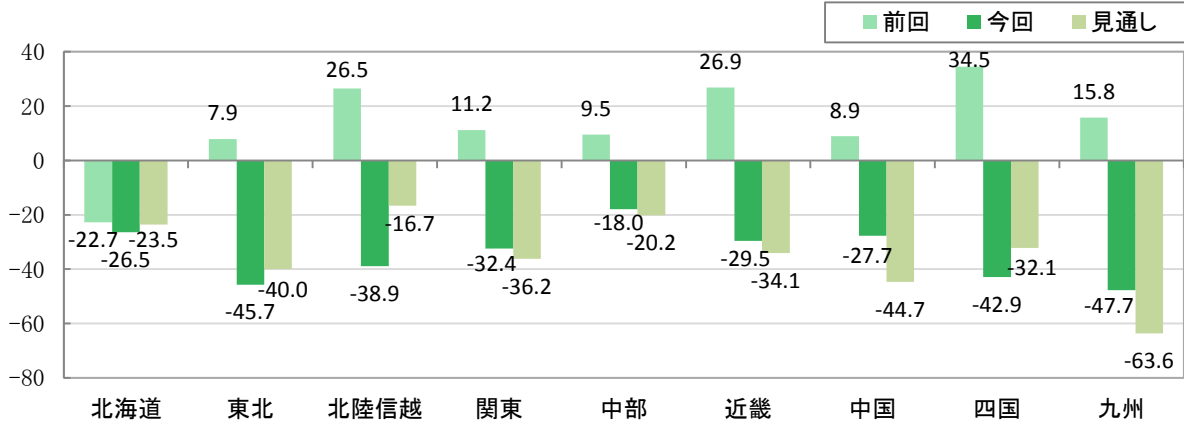
その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

③ 地域（注6）

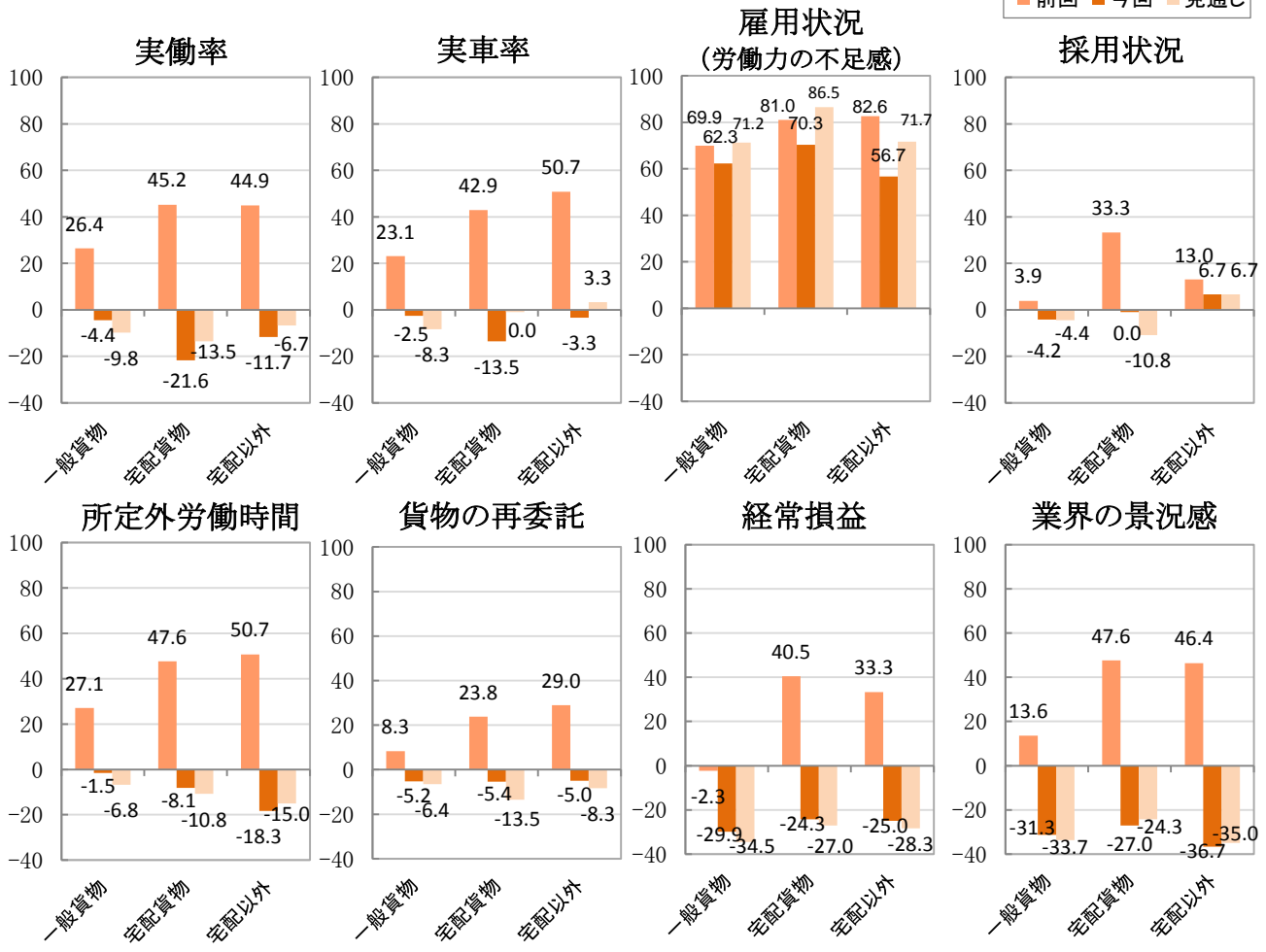
- ・一般貨物における地域別の景況感は、前回まで相対的に指標の水準が良かった四国、北陸信越が水準を低下させている。
- ・今後の見通しは、中国や九州において、今回よりも水準を下げる見通しである。

地域別 業界の景況感に関する指標（一般貨物）



④ 事業形態別（注7）

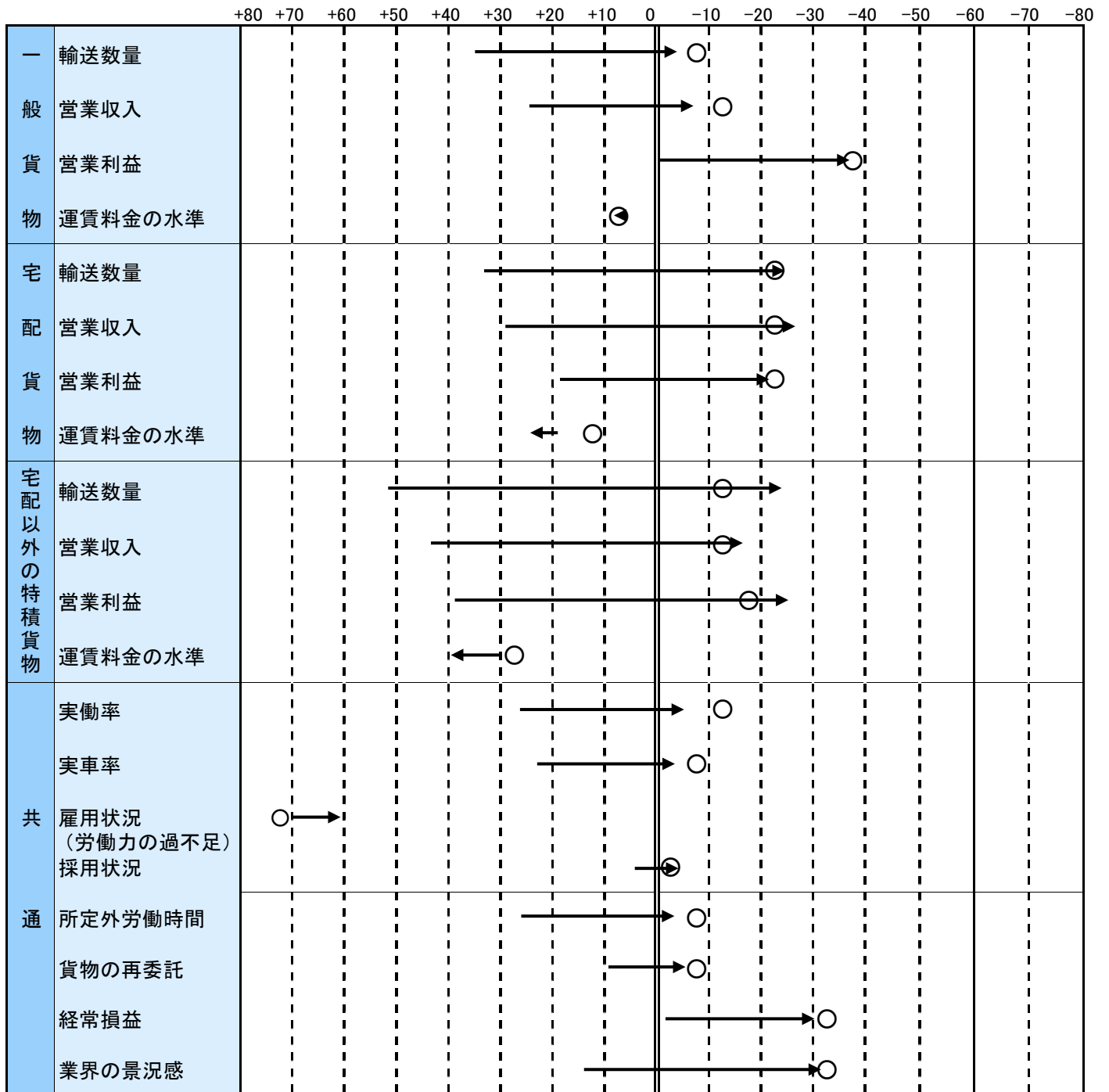
- ・事業形態別の景況感は、いずれも同じような傾向を示している。事業形態別に変化が顕著であった項目として、実働率については、「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」では、今回の下げ幅が大きい。また、所定外労働時間は、「宅配以外の特積貨物」において下げ幅が大きい傾向にある。雇用状況は「宅配貨物」の見通しにおいて不足感が強い傾向にある。



(注6) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注7) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

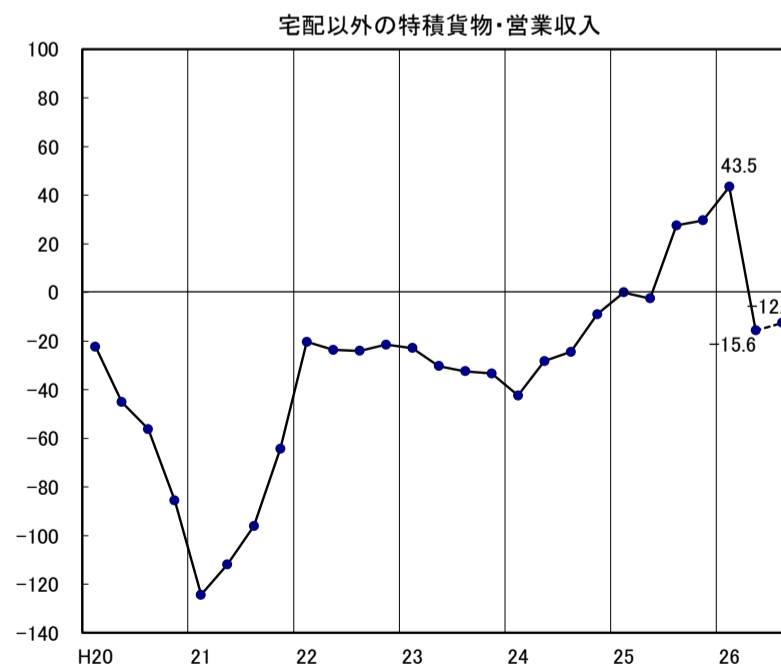
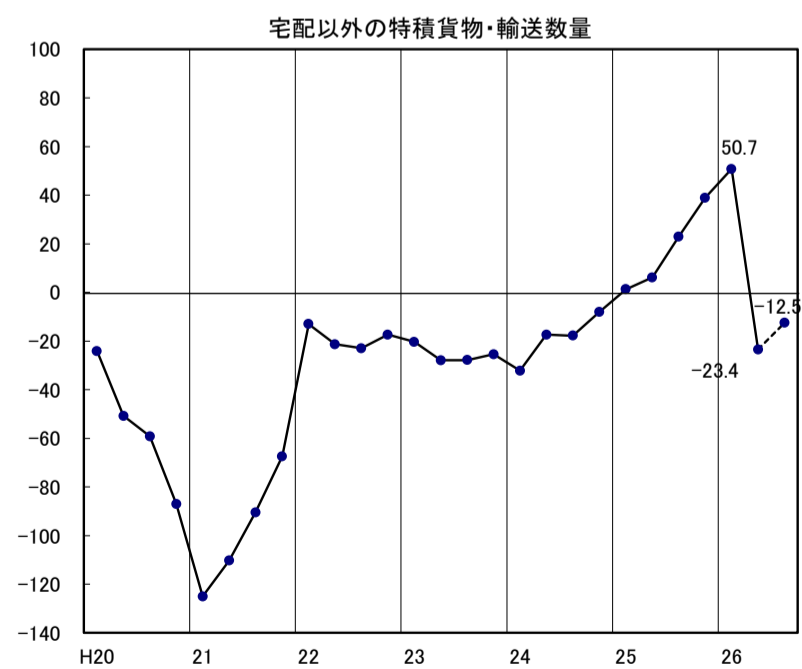
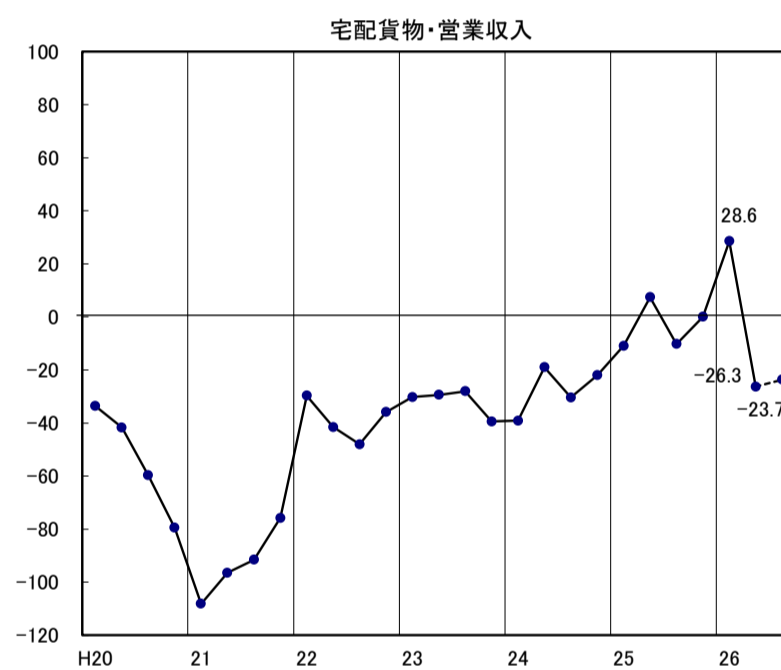
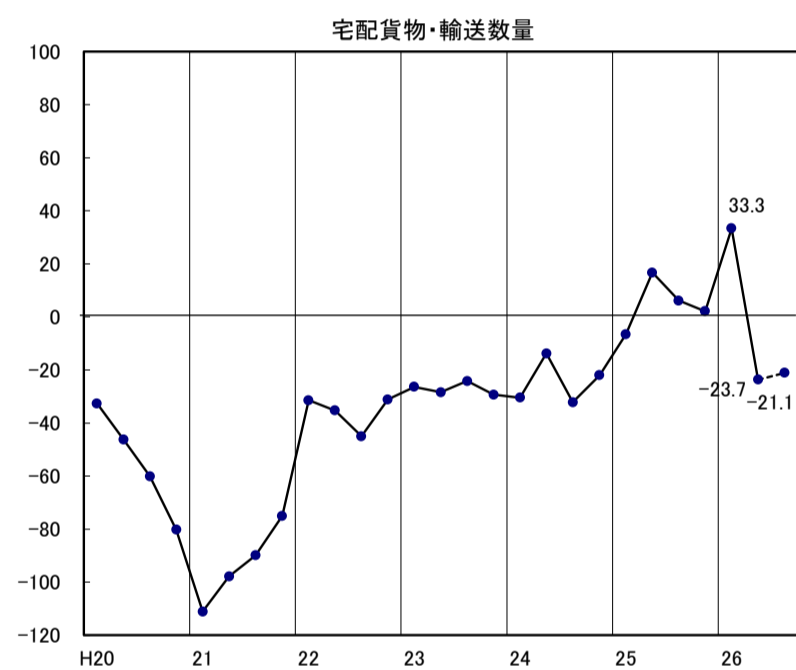
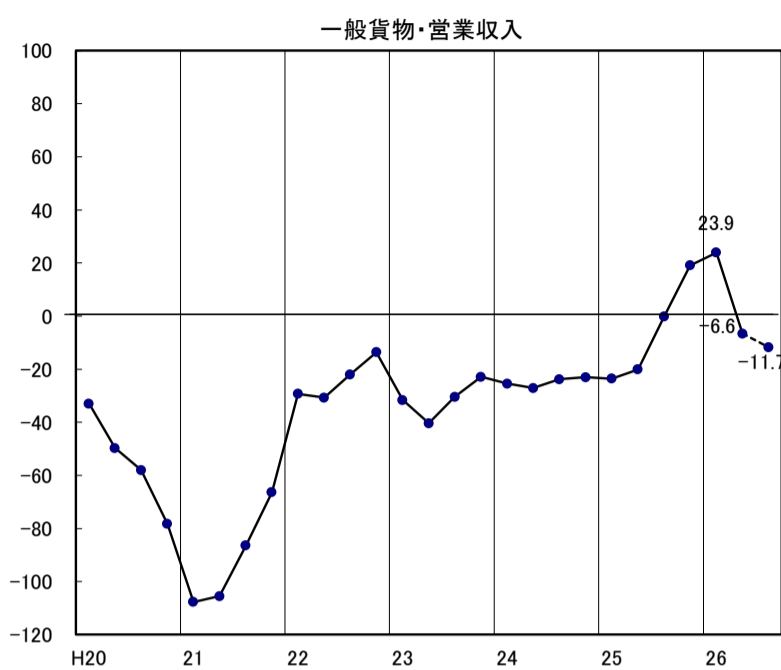
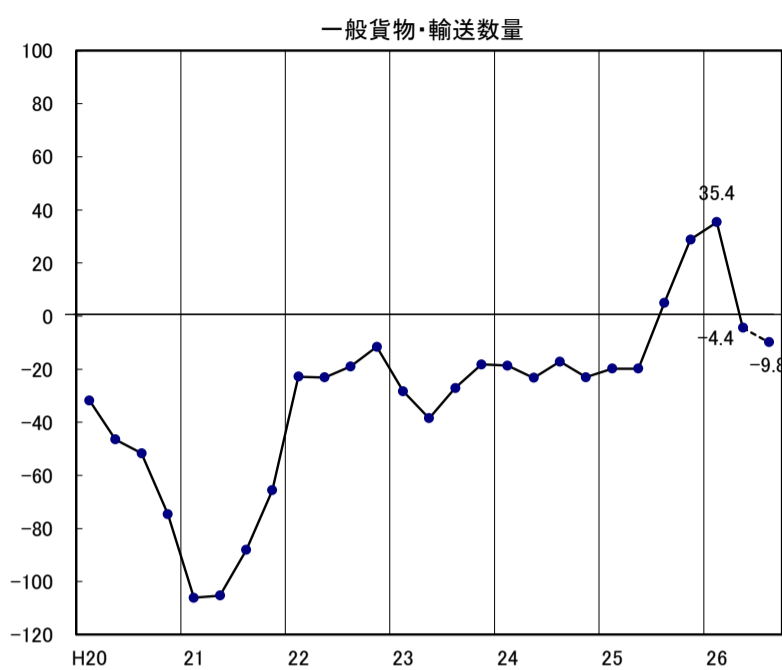
7. 業況判断指標の前回調査（平成26年1月～3月期）からの変化



凡例
 矢元：1-3月期の実績
 矢先：4-6月期の実績
 白丸：7-9月期の見通

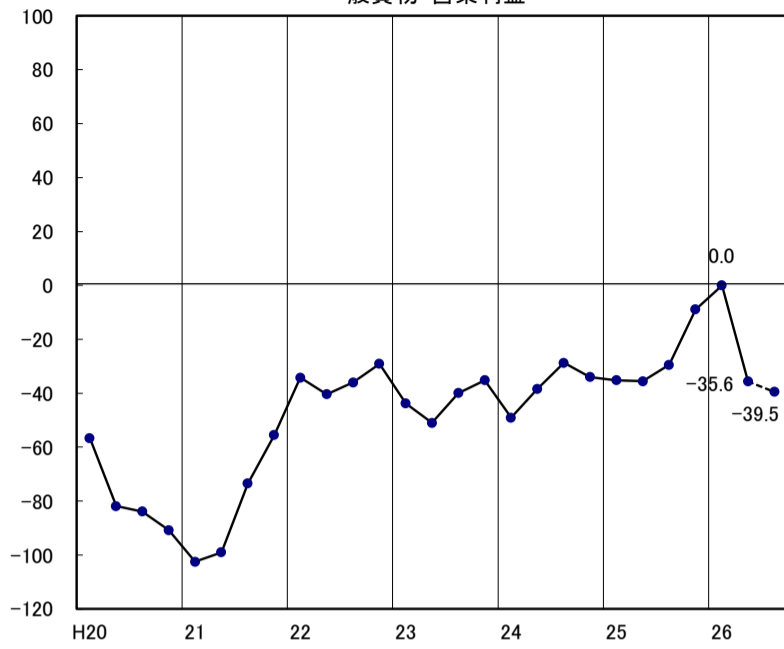
8. 業況判断指標の推移

平成20年第1四半期～平成26年第2四半期実績、平成26年第3四半期見通し

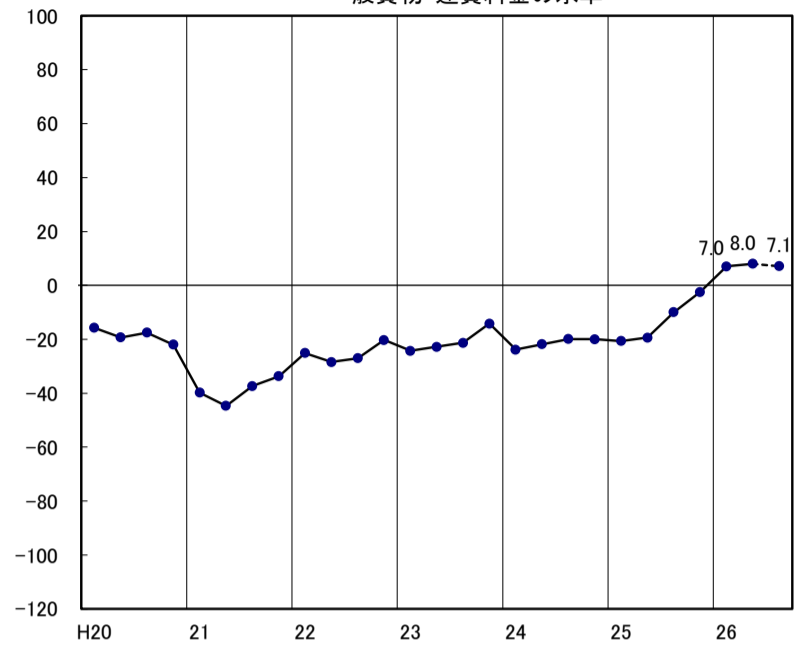


平成20年第1四半期～平成26年第2四半期実績、平成26年第3四半期見通し

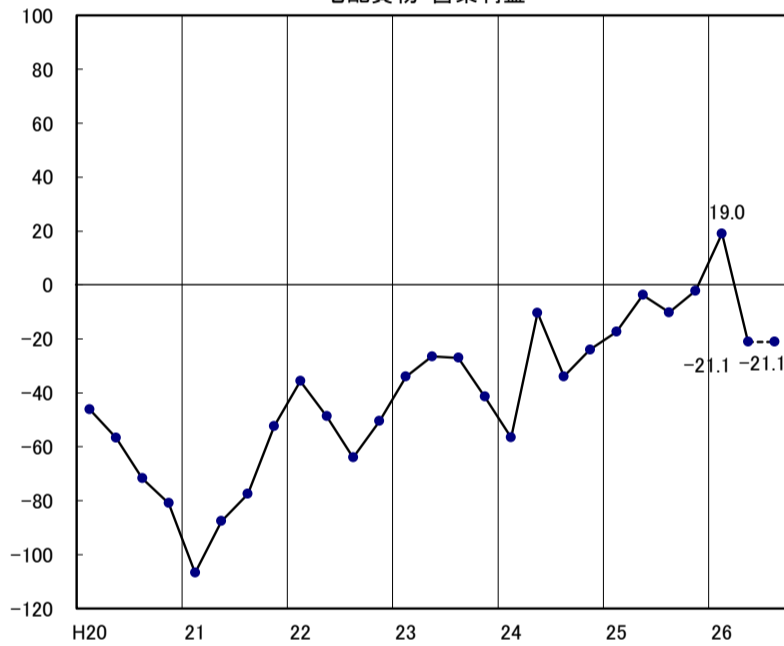
一般貨物・営業利益



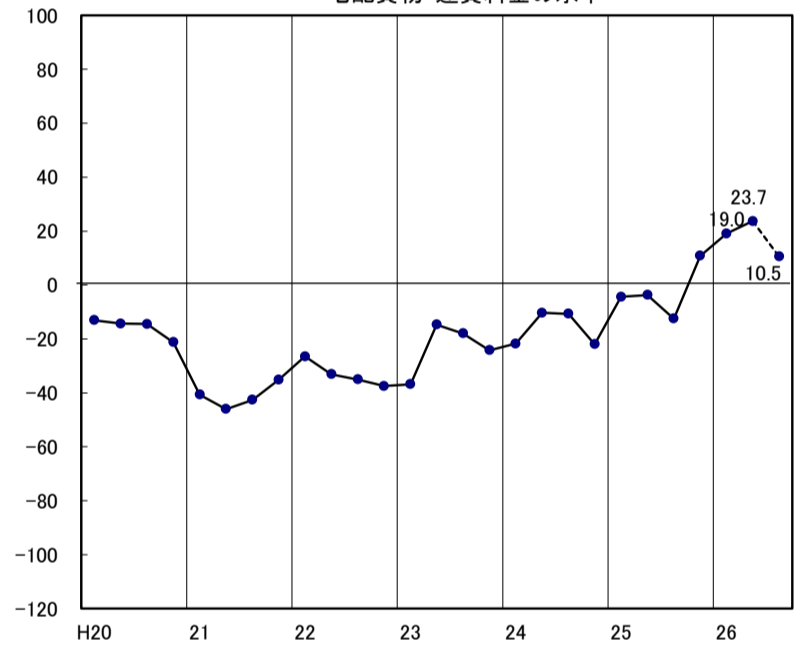
一般貨物・運賃料金の水準



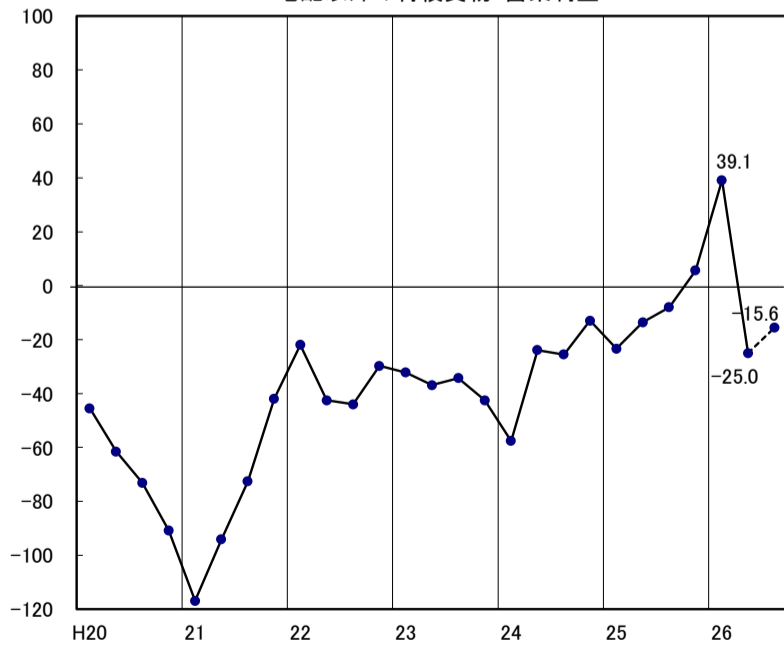
宅配貨物・営業利益



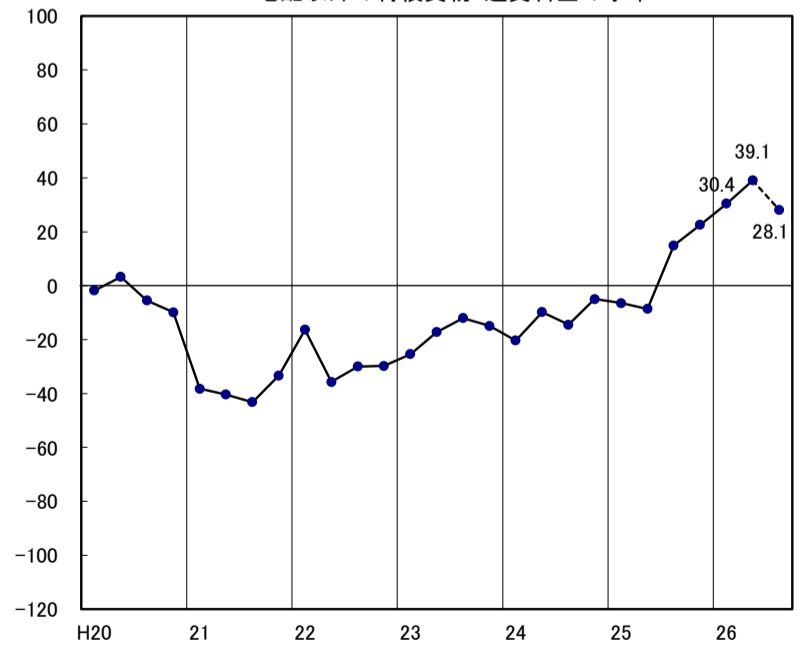
宅配貨物・運賃料金の水準



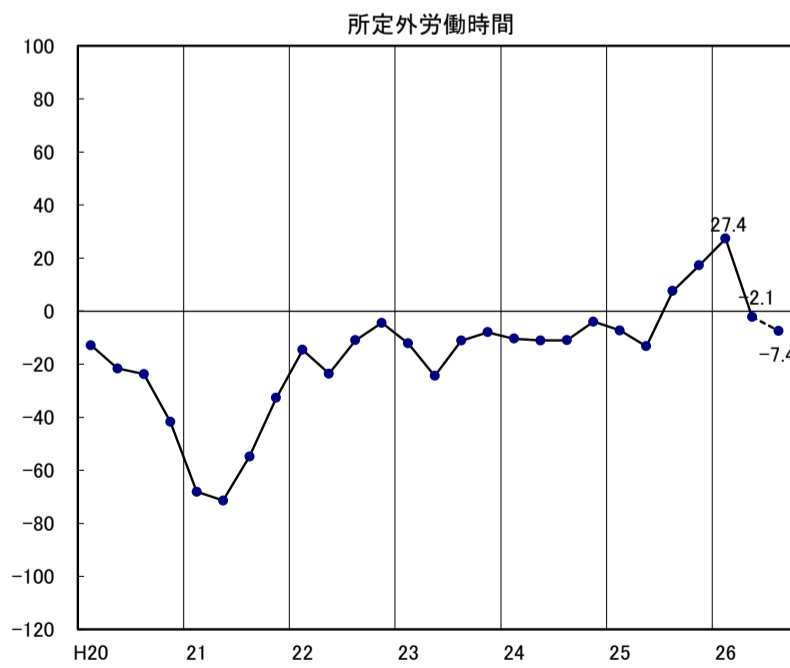
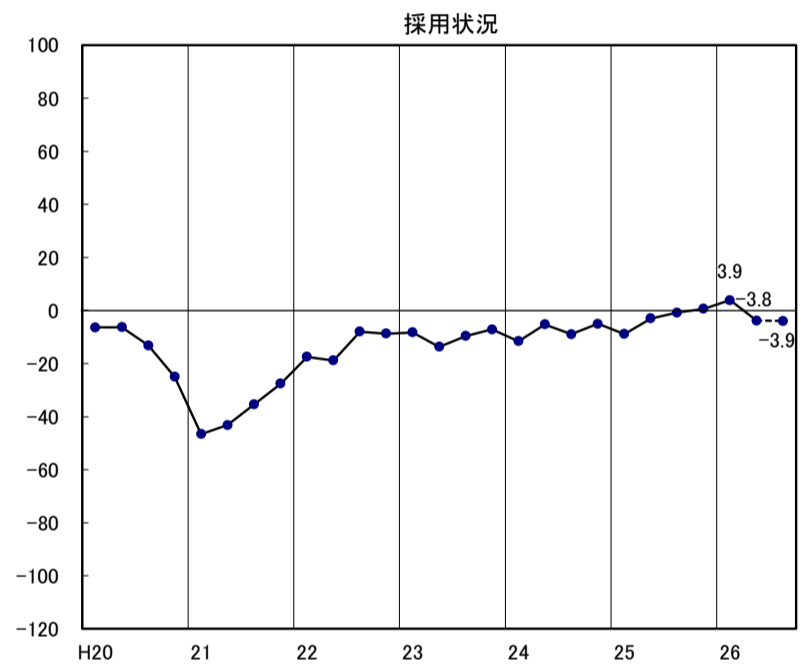
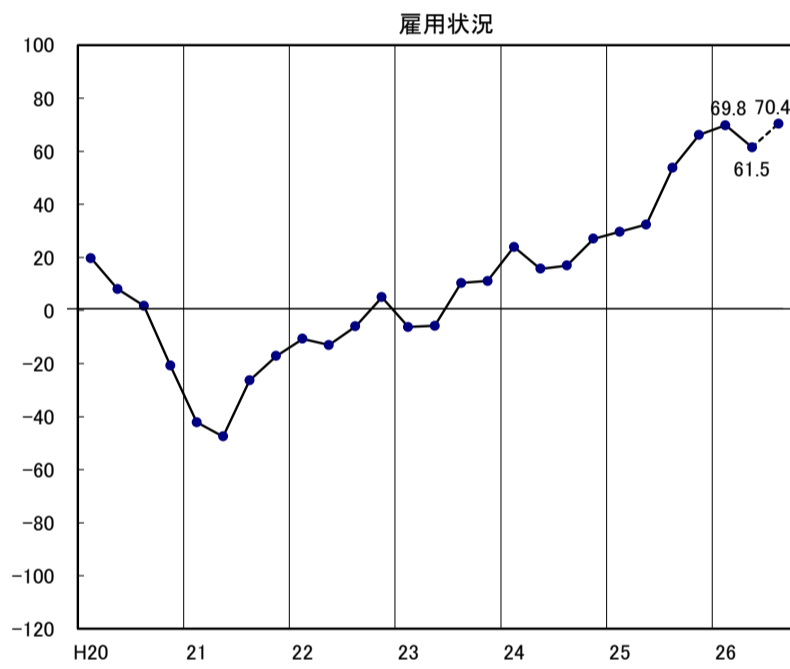
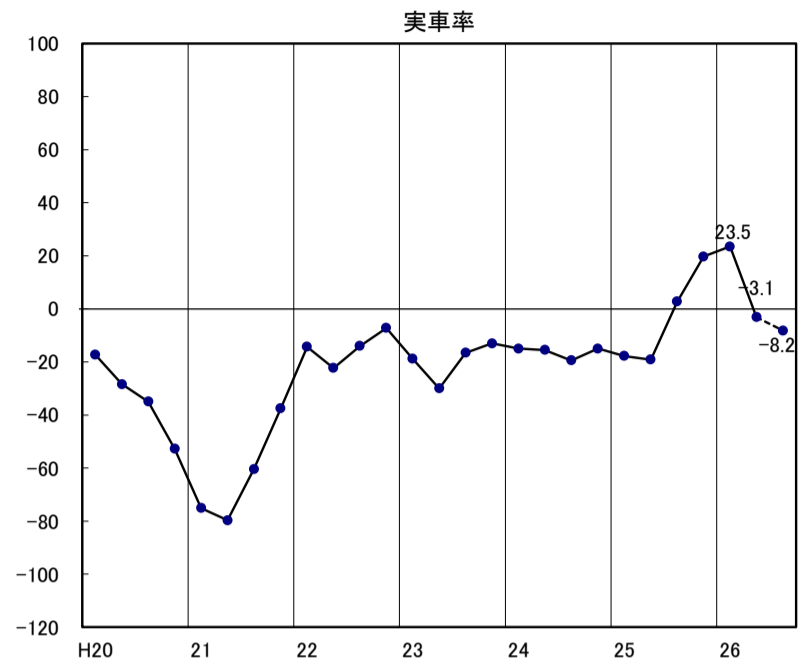
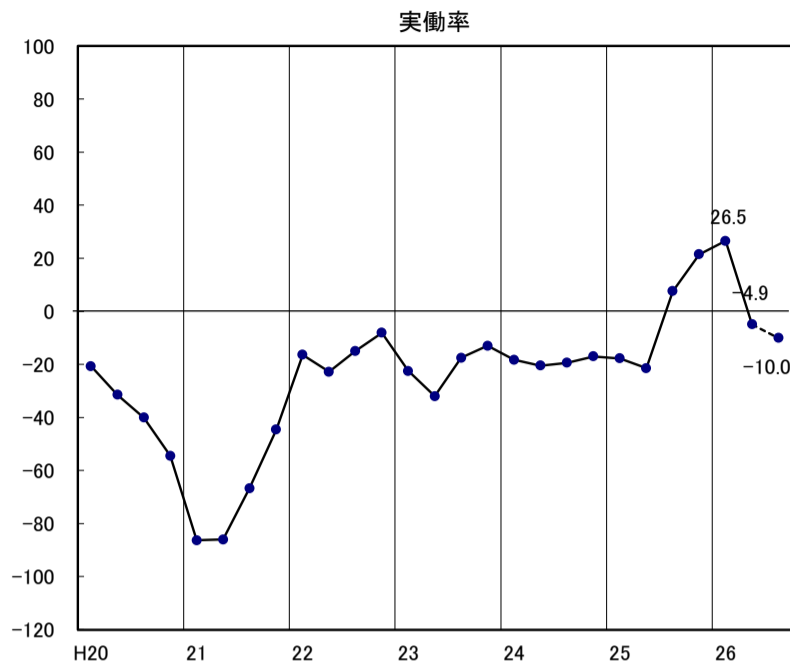
宅配以外の特積貨物・営業利益



宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準

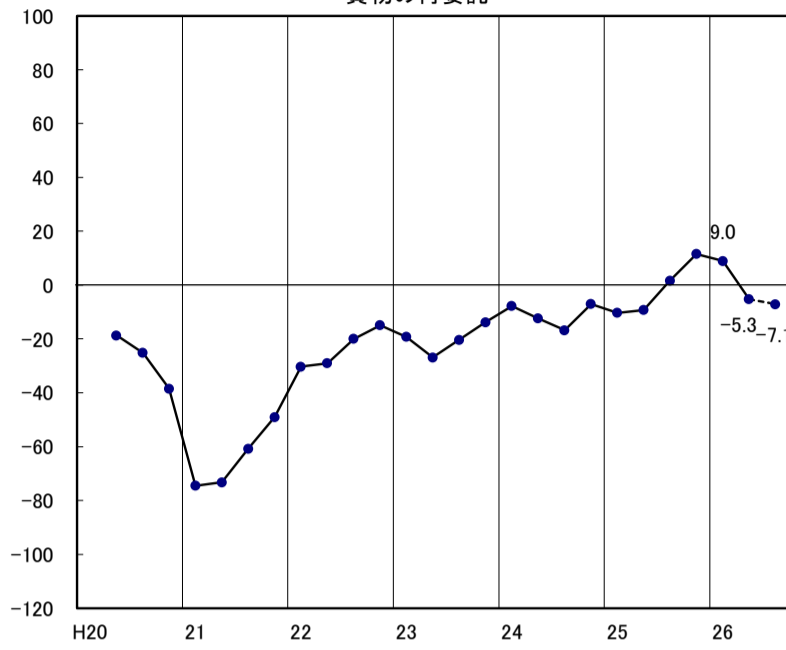


平成20年第1四半期～平成26年第2四半期実績、平成26年第3四半期見通し

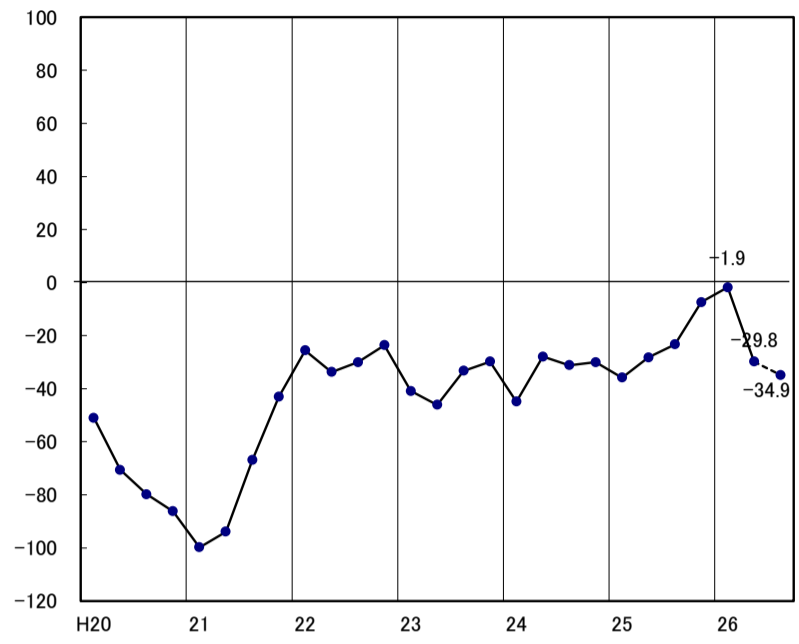


平成20年第1四半期～平成26年第2四半期実績、平成26年第3四半期見通し

貨物の再委託



経常損益



業界の景況感

